



ロゴセラピーのエッセンス

18の基本概念

ヴィクトール・フランクル著

赤坂桃子訳 / 本多美奈・草野智洋解説

◆小B6判・上製・160頁・本体1850円

人間は意味を探求する存在である

フランクルが『夜と霧』英語版に付した貴重な入門論文の初訳。ロゴセラピーを分かりやすく解説してほしいというアメリカ人読者の要望に応え、18の基本概念をコンパクトに説き明かした。また初期の論文「心理療法における精神の問題について」(1938年)を付す。



巻末解説は、日本でロゴセラピーを実践する精神科医・本多美奈氏(東北大学)と臨床心理士・草野智洋氏(静岡福祉大学)による2本。人間を「意味」(ロゴス)を

探求する存在と捉え、対話を通じ、他者から指示されるのではなく、自身で「意味」を発見する力を育もうとするロゴセラピーは、すべての現代人に豊かな示唆と勇気を与えるだろう。

〔目次より〕

ロゴセラピーの基本概念

- 1 意味への意志
 - 2 実存的フロアストレーション
 - 3 精神因性神経症
 - 4 精神の力学
 - 5 実存的空虚感
 - 6 人生の意味
 - 7 実存の本質
 - 8 愛の意味
 - 9 苦悩の意味
 - 10 メタ臨床的な問題
 - 11 あるロゴドラマ
 - 12 超意味
 - 13 人生のはかなさ
 - 14 技法としてのロゴセラピー
 - 15 集団的神経症
 - 16 汎決定論批判
 - 17 精神科医としての信条
 - 18 精神医学における人間性の復活
- 心理療法における精神の問題について
解説 (本多美奈・草野智洋)

十字軍とイスラーム世界

神の名のもとに戦った人々

11月下旬予定

ロドニー・スターク著／櫻井康人訳

十字軍は侵略者だったのか？



『キリスト教とローマ帝国』で著名な宗教社会学者が、西洋帝国主義の嚆矢とされる通説的十字軍像を歴史的に再検討し、その宗教的動機や社会的背景に迫った興味の尽きない話題作。緻密な分析から、中世世界の心性と、「聖地」をめぐるキリスト教世界とイスラーム世界の衝突の真相が浮かび上がる。

◆四六判・390頁・本体3200円

ロドニー・スタークは、カルト研究等で著名な宗教社会学者。1934年アメリカ・ノースダコタ州生まれ。UCバークレーで学位を取得。長くワシントン大学とベイラー大学で教鞭をとった。30冊以上の書物を精力的に発表している。

目次

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 序章 胃を身にまとった貪欲な野蠻人たち？ | 第六章 東に向けて |
| 第一章 ムスリム侵入者たち | 第七章 血みどろの勝利 |
| 第二章 キリスト教世界の反撃 | 第八章 十字軍国家 |
| 第三章 ヨーロッパの「無知」対イスラームの「文化」 | 第九章 十字軍国家防衛のための苦闘 |
| 第四章 巡礼と迫害 | 終章 エジプトに対する十字軍 |
| 第五章 十字軍士の召集 | 終章 打ち捨てられた使命 |

● 10月の新刊

合同教会の「法」を問う

北村慈郎牧師の戒規免職無効確認等請求訴訟裁判記録
日本基督教団の教会法は正常に機能しているのか。

10月21日発売

◆ A5判・本体1700円

島の小さな教会

多摩美術大学環境デザイン学科 編著

10月20日発売

◆ B5判・本体2000円

瀬戸内海に浮かぶ直島（なごしま）の斬新な会堂の写真と解説。



山口希生編

人生を聖書とともに

リチャード・ボウカムの世界

新約学から組織神学まで広範な領域で開拓的な業績をあげてきたボウカム。古希を迎えて来日する教授の感謝を込め、学恩を被る日本人たちが編んだ論文集。寄稿：浅野淳博・伊藤明生・遠藤勝信・岡山英雄・小林高德・山口希生・横田法路ほか。

◆四六判・予価16000円

ヴィクター・ファーニッシュ著／焼山満里子訳

第一コリント書の神学

パウロ研究の第一人者が、「パウロの神学」を安易に語ることを戒めつつ、伝道者・「使徒」として走り抜いた彼の、第一コリント書に込めた独自の目標・特徴を手堅く綿密に検討する。

◆四六判・予価35000円

ユルゲン・モルトマン著／福嶋 揚訳

希望の倫理

64年に『希望の神学』で衝撃的デビューを果たした著者が46年後に、これまでの神学的営為の総決算とも言うべき書を書き上げた。いま真の希望のありかを指し示す21世紀の倫理。

◆四六判・予価45000円

● 9月に出た本と雑誌

ソクラテスの死とキリストの死

日本における講演と説教



ユダヤ教・キリスト教・イスラームにおけるアブラハム像の異同、カルヴァンと旧約聖書の関係など、興味尽きない論考と説教8編を収録。

◆四六判・本体32000円

ローマの信徒への手紙 上巻

原口尚彰著



修辭学的に書簡論的分析の成果。ディアスポラ書簡という文脈から見えてくるパウロのメッセージ。上巻はロマ書序論および8章までの注解を収める。

◆A5判・本体46000円

基督教の起源

オンデマンド版

山谷省吾著

◆A5判・本体68000円

福音と世界

◆税込635円

10月号―特集 聖書と贖罪

寄稿者：小友聡、山口希生、鈴木浩、ゾントーク・ミラ、河野克也、芦名定道、金必順、内田樹、佐藤優、辻学、日本昭男、木原葉子、一色哲、末盛千枝子ほか

●フランクは『ロゴセラピーのエッセンス』で「意味の探求は人生における主要な一次のモチベーション」だと述べ、また解説で精神科医の本多奈美氏は、「運命づけられていたり、誰かから与えられたりするものではないかもしれません」と指摘しています。人間は意味なくして生きられないが、それは自分で見つけなければならぬ。ロゴセラピーとは、意味を見つける力を育む対話のプロセスだと思えます。伝道もそういうものではないでしょうか。教理の注入でなく。

●ドイツのヴッパータール神学大学で長く組織神学を講じたベルトルト・クラッパート先生が9月下旬来日し、バルト研究会・ボンヘッフアー研究会合同で先生を囲む2泊3日の研修会が仙台で行われました。『ソクラテスの死とキリストの死』が何とかこの会に間に合い、できたての本をお渡しするのたいへん喜ばれました。6年ぶりにお会いする先生は日本流に言えば喜寿ですが、相変わらずタフで、初日から講演や討議をこなし、夜には『福音と世界』のインタビューにも応じてくださいました(2月号掲載予定)。編集子は

「聖餐と過越」と題する講演を非常に面白く聴きました。マルコ福音書14章の最後の晩餐の記事をほぼ逐条的に注解しながら、旧約とりわけ出エジプトの解放伝承との対話の中で聖餐を捉え直し、「イエスの最後の食事を過越の食事として考察することが、新約聖書で正典的に命じられている」という指摘が印象的でした。その一方、質疑の時間では現代の問題にも触れて、聖餐はすべての人を招く食卓であるけれど、たとえばシリア政府が使用しているとみられる化学兵器の製造企業(ドイツの化学会社だそうです)の社長を聖餐停止とすることが真剣な教会の問題として考えられねばならないと言われたときは、やはりある衝撃を覚えました。

●小社ビル2階で営業していたキリスト教書店ハンナが8月末で店を閉じました。今ほどの専門書店も厳しい状況下で奮闘していますが、ハンナは7年間やってきて、一独立書店として継続することを断念せざるをえませんでした。ただし社員は全員ののちのことば社に移り、同じ商圏で営業を続けます。教会・学校・幼稚園等のご用があればどうぞお引き立てをお願いいたします。

福音と世界

2016年

11

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8460円

特集・聖書と映画

アメリカ映画のイエス・キリスト……木谷佳輔
聖書と映画の120年史……服部弘一郎
いいじゃないか、映画なんだから……富田正樹
「復讐は創造主にまかせよ」……久世そらち
明日に向かって手を取り合う……中村吉基

旧約聖書における社会的弱者の保護をめぐる

【書評】若川進一「カラマゾフの兄弟論」……月本昭男

【新連載】アメリカの神学と教会のいま……釘宮明美

【連載より】……吉松 純

- ◆現代神学の冒険 2 …… 若名道雄
- ◆新約釈義 第一テーマ書 9 …… 辻 学
- ◆聖書素読 11 …… 金 必順
- ◆消しゴム点描 11 …… 望月麻生
- ◆リレーエッセイ・聖書とわたし 11 …… 河 幹夫
- ◆カナダ教会通信 12 (最終回) …… 木原葉子
- ◆レヴィナスの時間論 20 …… 内田 樹
- ◆南島キリスト教史入門 25 (最終回) …… 一色 哲
- ◆ことばの履歴書 32 …… 佐藤 優